

カニの春を囁つて居り、靜なる海の遙か彼處には曉の涼しき灰色の空の下に遠き海角が靜に眠つてゐる。風に吹かれた衣と落ち散る花と、細波の搖ぎとは風に搖らるる髪の毛と共に輕快なる動きを示し歓迎の天精の爽快なる動作と靜に在るヴィナスとは風の心地をよくあらはしてゐる。ポチチエリはこの女神程美しく麗はしく描いたことはないと言はれてゐる。從來の彼の女神に見出した堅さを去つて軟く何のこだわりもなく筆を運んでゐる。ポチチエリの女神に感心し得なかつた人もこのヴィナスの新生こそは非難を云ふまい。人間の女性を離れた神々しさを赤裸々に窺はんとするならば恐らくこのポチチエリの女神を除いて他に見出し得ないであらう。

新著紹介

○米國の政治組織及其活動

法學博士 大山卯次郎著
四六版二八八頁附錄三二頁 國際聯盟協會發行

定價壹圓貳拾錢

政治組織そのものの研究は地理學の直接對象とする處ではないかも知れぬが、種々の地理的現象に直接又は間接に影響する處は頗る大である。米國の地理が本邦の學者・教育者にとつて重要な位置を占めるにつけても、その政治組織と運用振とを簡明に論述した本書は我々にとつて頗る重寶なものである。著者は多年外交官として彼地に在りし人、先づ憲法の歴史的精神より始めて、合衆國と州 States との關係、三權分立主義や地方政治迄説明してある。所謂ヤンキー氣質の基づく所や現今やかましいモンロー主義・門戸開放機會均等から排日問題の經緯等についても系統的な知識を獲る事が出来る。卷末に附録として合衆國の憲法が載せてある。各州が如何に合衆 unite してゐるかを知らる必要が地理學徒にもあると思はれるので、そろゝ新刊でもなくなる本書を紹介する。(尾山生)

○鑛山の開發と經營

工學博士 山田復之助著 内田老鶴圃發行 二九七頁 定價三圓

鑛業は充分なる認識を得れば極めて安全に經營し得らるべきものである。著者は東京帝大鑛山學教室に於ける選鑛學講義、古河鑛業所に於ける三十年來の經驗に基いて、最近一ケ年間多少の心血を注いで本書を書いたと述べてゐる。記述の範圍は金銀銅鉛等の非鐵金屬鑛業を主とし、第一篇序論に於て鑛山の特性・鑛業失敗原因・鑛山の五時代(探鑛起業發展

繁榮衰頹)、鐵石・品位・設備等、第二篇鐵山の評價に關する事項、第三篇採鑛概念、第四篇選鑛に關する事項を述ぶ。鑛業に直接又は間接に關心を持たるゝ人、地質學者、學窓を出でたる新進技術家などに鑛業の輪廓を示す上に於て極めて適當な著書である。(上治)

○人文地理學の基礎的知識

淺井治平著 東京目黒書店發行 定價三圓

四六版四一六頁、索引つき、附録として文檢の地理問題がつけてある。一章から七章まで、地理學の發達から自然と人文の關係に及び人類地理、聚落地理、經濟地理、交通地理、政治地理の五部門にわたつて、簡單に其要點を叙したものである。行文亦流暢、凡そ現代地理學の輪廓を知るには適當な本であると思はれる、初學者の良參考となるであらう。(F)

○郷土と産業

佐藤弘、山本二郎著 雄山閣發行

定價一圓六十錢

菊版二百十頁の小冊子であるが、日本の産業について各地方別に簡潔に要領を記したものである、但し本州、四國、九州に限られて北海道や臺灣には及んでない。(F)

雜報

○天津港の背後地

天津は明末清初には渺たる一駐兵地

であつたが、民船來往の要地となり、李鴻章の直隸總督となつてから、天津は頓に發展し河北山東及東三省を商勢圏とし、更に近くは山西、河南、遠くは陝西、甘肅、新疆、蒙古より仕入客がやつてくるやうになつて、明治三十二年貿易額七千七百萬海關兩となり、翌三十三年義和團の亂起り貿易も三千二百萬海關兩に減じたが、日露開戦の際、兩國軍需品の調達地となつたので俄に商況が活潑になり三十八年には九千六百萬兩の貿易額に上つた、その後一進一退、大正八年には世界好景氣のため一億九千萬テールの貿易額を示したが、爾來陰に陽に排日貨が起つて、國內不安であつたけれども、大正十年以後二億海關兩に達し、昭和二年以後は三億海關兩以上の大増進をなし、支那では上海、大連について第三の位置に達した、この三大港につぐものといへば漢口、廣東、青島、汕頭の順序であつて營口、安東、哈爾濱、重慶、九江、九龍、寧波、蕪湖、厦門、福州、長沙、南京、秦皇島、芝罘等は億海關兩以下三千萬海關兩の間に出入するのであるから(以上昭和五年度統計による)何といつても天津は北支那第一の貿易港である。これ實に其背後地の廣大にして水運(民船)陸運の便を兼ねてゐる結果である、たゞし近年になつて外蒙古共和國がソウエトの使曠の下に張家口、庫倫間の通商路を閉鎖したこと、海河の泥塞があるので、汽船が塘沽より上へ溯航の出来ないといふやうなことは、共にこの港の貿易に對する大なる支障であるけれども、それでも將來の見込は確實